

## 鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取～福部）の計画段階評価におけるP Iの取組について

鳥取河川国道事務所 非会員 廣瀬 遼太  
 鳥取河川国道事務所 非会員 浅井 順一  
 鳥取河川国道事務所 正会員 ○橋本 浩良

## 1. はじめに

道路の計画段階におけるP Iの取組は、近年全国的に実施されている。多くはアンケート調査や企業へのヒアリング調査などにより、行政から地域住民に対する情報提供や意見聴取が行われている。地域住民が感じている地域課題の把握と認識共有を図り、道路計画に反映していくためには、地域住民が議論の主体となる住民参加型の手法も有効と考えられる。

鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取～福部）の計画検討では、アンケート調査やヒアリング調査、オープンハウスやニューズレターの配布、ポータルサイトの構築とともに、地域住民が議論の主体となるワークショップを開催した。

本稿は、住民参加型の意見聴取手法として取組んだワークショップに焦点をあて、その特徴と実施成果について紹介するものである。



図-1 鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取～福部）

## 2. ワークショップの特徴（配慮した点）

ワークショップの開催経過等は図-2の通りである。

また、ワークショップの特徴は以下の通りである。

- ① 行政職員の関わりをできる限り少なくした地域住民主体の議論
- ② 地域バランスを考慮したワークショップ参加メンバーの募集
- ③ プレワークショップの実施

①について、地域住民が主体となって議論をしてもらうため、行政職員の関わりは議論に必要な情報提供、不明点の質問対応のみとした。議論の発散を防ぎ、円滑な進行を図る観点から、グループ毎に第三者の司会進行役を配置した。地域住民同士の議論により地域課題の把握と共有が可能となり、一住民としての意見に加え、事業に関係する地域全体を俯瞰的にとらえた議論がなされていたと感じられた。

②について、公平性の観点からインターネット及び新聞折込みを活用した広範な公募を行うとともに、地域バランスを考慮し、公民館地区ごとに概ね均等な人数のワークショップ参加者の募集を行った。地域バランスには配慮できたものの、年齢層の高い男性が大半を占める結果となった。今後は、ワークショップの実施目的



図-2 開催経過

キーワード 計画段階評価, PI, 鳥取豊岡宮津自動車道  
 連絡先 〒680-0803 鳥取県鳥取市田園町4丁目400番地

国土交通省鳥取河川国道事務所 TEL0857-22-8435

を踏まえた、年齢層や性別も含めたバランスを考慮した参加者の募集方法が課題と考えられる。

③について、議論のしやすさを踏まえ設定した議題の妥当性や適切な時間配分なのかといった実践しなければ見えてこない課題の洗い出しを目的として、行政職員が住民役となりプレワークショップを行った。第3回ワークショップ前に行ったプレワークショップでは、「各ルート帯（案）が整備されることへの不安」の議題に対して、「生活環境」・「自然環境」・「景観」といった抽象的で一般的な議論にとどまった。このような課題を踏まえ、司会進行役が出てきた意見に対して付加的な情報を積極的に聞き出す質問を投げかけることで意見の深掘りを行うなど司会進行役の議論への関わり方を意識させた。議論の発散を防ぎつつ、行政側として得たい情報と成果を得るための事前準備が重要と考えられる。

全4回のワークショップを通じ、次の成果が得られたと考えられる。ワークショップ参加者同士の議論を通じ、参加者相互の理解度が向上するにつれ、事業に対する議論がより俯瞰的かつ積極的になったと感じられた。図-3は、第1回ワークショップの中で取り纏められたあるグループの議論の結果である。「交通課題に対する解決策」について議論される過程で複数ルートが提案されるなど自発的な議論がなされた。また、IC位置の検討にあたってワークショップ内で議論された周辺施設へのアクセス性といった現況の交通課題を踏まえた具体的な位置が提案された。アンケート調査やヒアリング調査、オープンハウス等でいただいた意見も踏まえ、行政側として最終的に設定した複数のルート帯案が図-4である。

概略計画の選定後には、参加者からの意見がどのように反映されていたのか、または反映されなかったのかを直接説明するワークショップメンバーへの報告会を設けた。



図-3 ワークショップで得られた意見の一例

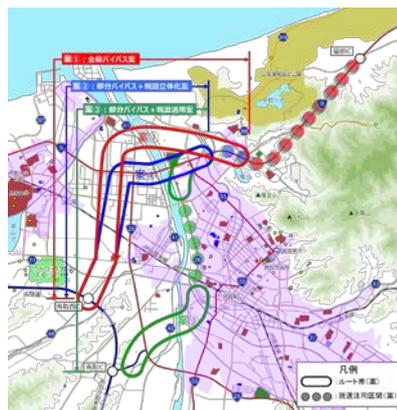


図-4 複数案の設定（3つのルート帯案）

### 3. おわりに

道路計画を行う上で、地域住民の方が感じている課題を把握し、事業者と共通認識を図っていくことが必要である。今回実施したワークショップでは、参加者同士に熟度の高い議論を促すとともに住民主体の議論の中で得られた意見を概略計画に反映することが出来たと考えている。

一方で、ワークショップは、比較的少人数の意見聴取になるという点に注意が必要である。また、ワークショップ参加者の募集を行う際には公平性の観点から偏りが生じないことが求められる。今回のケースでは、女性や若年層からの参加者が少なかった。そのような方々にどのようにして興味を持ってもらい、参加して頂くかを改善していく必要があると考える。

PI の取組にあたっては、アンケート調査やヒアリング調査、オープンハウスといった様々な対面式のコミュニケーション手法についても、それぞれの長所・短所を踏まえ、組み合わせていくことが有効であると考えられる。

### 謝辞

鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取～福部）のワークショップ開催にあたり、鳥取大学工学部の谷本教授、長曾我部助教をはじめ、関係者の皆様より多大なご協力を頂きました。ここに記して深く謝意を表します。